

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F102310100603	設置等組織名	ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
大学名	青森大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	青森県	事業計画名	青森大学地域課題解決型情報インタフェース強化事業

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		①令和5年7月：(例)フォルテ様などとDXを活用した共同研究に関する事前協議の実施 ②令和5年9月：(例)東京堂様等とむつ市の理系人材を育成するための事前協議の実施 ③令和5年10月：東京都江戸川区役所様等と江戸川区を中心としたDX推進関連協働事業などの事前協議 ④令和6年4月～令和7年3月：情報館（仮）の改修および新設等に関する学内検討、見積もり合わせ ⑤令和6年10月～令和7年3月：高校生への特定成長分野に関する受容性調査（調査報告書作成含む）	①令和5年9月：(例)フォルテ様などとDXを活用した共同研究に関する事前協議の実施 ②令和5年10月：(例)東京堂様、 むつ商工会議所 等とむつ市の理系人材を育成するための事前協議の実施 ③令和5年11月：東京都江戸川区役所様等と江戸川区を中心としたDX推進関連協働事業などの事前協議	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2前倒し		フェーズ2の前倒しは予定していない。		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和7年6月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 入学定員20名定員増認可申請および関連届出			
フェーズ1後倒し		フェーズ1の後倒しは予定していない。		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2		①令和6年10月：文部科学省へ定員増（入学定員：20名増）に関する事務相談等 ②令和7年4月～令和8年3月：青森キャンパス内へ特定成長分野の人材育成に特化した情報館（仮）の改修および新設 ③令和7年4月～令和8年3月：その他、各キャンパス内関連施設・機器等の見直し、増設等 ④令和7年6月：文部科学省へ定員増（入学定員：20名増）に関する認可申請および関連届出		R6年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和8年4月：ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 入学定員20名定員増			
フェーズ2後倒し		フェーズ2の後倒しは予定していない。		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3		①令和9年10月：学生の内定先企業等への満足度調査の実施 ②令和10年9月：入学生への満足度調査の実施 ③令和10年10月：産業界含む学外へ本学の特定成長分野の人材育成の取り組み等に関する調査の実施 ④令和11年1月：連携高校等へ本学の特定成長分野の人材育成の取り組み等に関する調査の実施		R9年度自己評価	リストから選択してください。
				R10年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3					
				R11年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	青森大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
計画通りに進んでいる	■ チェック	

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック	

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

□ チェック

□ チェック

a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本学のキャンパスを設置している自治体などと連携した科目を整備すべく、交渉や調整を行い、特定成長分野の人材育成を踏まえたPBLなども活用した科目の整備、実施を行っていく計画である。	青森県青森市に本社を置く企業や青森県むつ市に本社を置く企業、東京都江戸川区を中心に活動している企業、および本学のキャンパスを設置している自治体などと連携した科目を整備すべく、キャンパスを置く地域の各種団体等と今後の連携等に関する交渉・調整を行った。自治体関係では、令和5年度に青森市役所における青森市長等へ連携に関する交渉、むつ市役所におけるむつ市長および企画調整課等へ連携に関する交渉、東京都江戸川区における経営企画部企画課等へ連携に関する交渉や調整等を行った。企業関連では、青森市では青森商工会議所における会頭・副会頭等へ連携に関する交渉、㈱フォルテ、㈱テクニル等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。むつ市では、むつ商工会議所における会頭と連携に関する交渉、㈱東京堂、㈱むつ車体工業等の企業と連携に関する交渉・調整を行った。東京都では、㈱ケーター販売、㈱エレクトク、㈱ビズアップ、㈱ハースコーボレーション、（独）国立青少年教育振興機構、（一社）日本経営協会などの企業・団体等と特定成長分野の人材育成を踏まえたPBLなども活用した科目の整備、実施を行うためにと交渉や調整などを行いこれらの内容等について議論を重ねた。また、学内に青森大学地域課題解決型情報インタフェース強化タスクフォースを設置し、本学文系２学部、理系２学部の科目構成の確認、今後の横展開などの文理融合教育の推進等、会議体での議論、teamsを活用した意見・情報集約、カジュアルなミーティングなどでのブレインストーミング等を行い、学内でも今後の科目展開について議論を重ねた。	次年度以降は、青森県内（青森キャンパス、むつキャンパスを本社所在地に置く）の複数の企業・団体等とさなる協力・連携体制を仰ぎ、PBL等を活用した科目展開について引き続き検討し、社会のニーズと学生のシーズがよりマッチするように検討を重ねてより深化した展開を構築していきたいと考えております。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

□ チェック

■ チェック

■ チェック

■ チェック

a. 入学者選抜における科目の見直し

b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学として多様な入学者の確保に向けた取り組みとして、4点挙げて説明したい。1つめとして、入学者選抜における科目の見直しを行い、従来より地域活動への意欲を問うているが、今後は一般選抜で「情報」を選択できるような検討、思考力を問う項目を追加することなどを検討し、入学者選抜に関して社会のニーズ等を踏まえた形で見直しなどを行っていく。2つめとして、地域の初等中等教育段階の学校と連携した出張授業や教育関連イベント等を通じ、連携事業等に取り組む中で本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。3つめとして、本学は社会人の受入れ体制は整備されているが、入学者はまだまだ少ないため、社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。4つめとして、留学生についても増えてきているが、さらに受入れ強化を図るため、在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。	本学として多様な入学者の確保に向けた4点の取り組み状況として、1つめの「入学者選抜における一般選抜での「情報」を選択できるような思考力を問う項目を追加することなどの検討」については、大学内の入試関連組織を改組し、入学者選抜選考部会、学生募集戦略部会、離学者防止対策部会の3つの部会での議論を踏まえ、思考力を問う科目の追加等を踏まえた見直しについて検討を行った。2つめの「地域の初等中等教育段階の学校と連携した教育関連イベント等を通じ、本学の特定成長分野の人材育成における魅力等を発信し、今後の学生募集につなげていく。」ことについては、令和5年度は青森県内の県立高等学校3校（木造高等学校、六ヶ所高等学校、三戸高等学校）と新たに高大連携協定を締結し、出張講義や教育関連イベントの相互展開、特定成長分野の人材育成における魅力等を発信すべく、連携高校の全てに本学の担当として教職員を配置し、連携高校の教職員と今後の発展性について協議等を行った。これらの取組みが今後の学生募集につながっていくものと考えている。3つめの「社会人を対象とした、特定成長分野の内容を含んだリカレント教育の推進、リスキングのために3キャンパスに関連する自治体や企業などに働きかけを行い、入学者の確保について推進していく。」ことについては、キャンパスを置く青森市、むつ市、江戸川区などの自治体等と協議を重ねているところである。4つめの「在学留学生の声などを参考に、出口の保証など留学生に多様な社会選択をさらに提供すべく、本学の魅力を国内外に向けて発信し、多様な入学生の確保をしていきたい。」ことに関しては、学長自ら留学生などにヒアリングを行ったり、学内の満足度調査等から学生の声を集め、できるところからではあるが、学生の声を踏まえた対応を行っている。本学の魅力の発信については、学生たちの活動を積極的に取り上げ、SNS等を活用し、国内外に発信頻度を増やしているところである。出口の保証についてもキャリア支援に関する全学的な教職協働体制でチームを編成し、正課内でのキャリア関連科目の充実、正課外での各種キャリア支援、資格取得支援等、多様な選択肢を提供できるよう学生の声に寄り添いながら就職先企業の開拓等も合わせて進めているところである。	各種取組みを実施しているが、即効性は見えにくいため、複数年かけて効果の検証をしつつ、半年度の取組みについて振り返りなどを行い、不断の見直しを行いながら、社会のニーズにマッチしつつ、本学学生の声や入学予定者の声などに寄り添った取組みを行いながら、より積極的に教職協働体制で進めていきたい。

大学名	青森大学
-----	------

大学名	青森大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320																	
		入学者数	人	315	297																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	320	320																	
		入学者数(B)	人	315	297																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.98	0.93																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1380	1380																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	1187	1204																	
		編入学者数	人	3	5																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.86	0.87																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		25,463	148,163	81,710	80,241	12,055	71,135													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	62,471
本事業による助成金の額(F)	千円	217,833
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	67,917

特記事項

本学の編入学定員は、若干名となっており、編入学試験で合格し、入学した場合には対応する年次に編入学しているため、各項目の対応する編入学者数の欄には編入学者数を入れている。
--